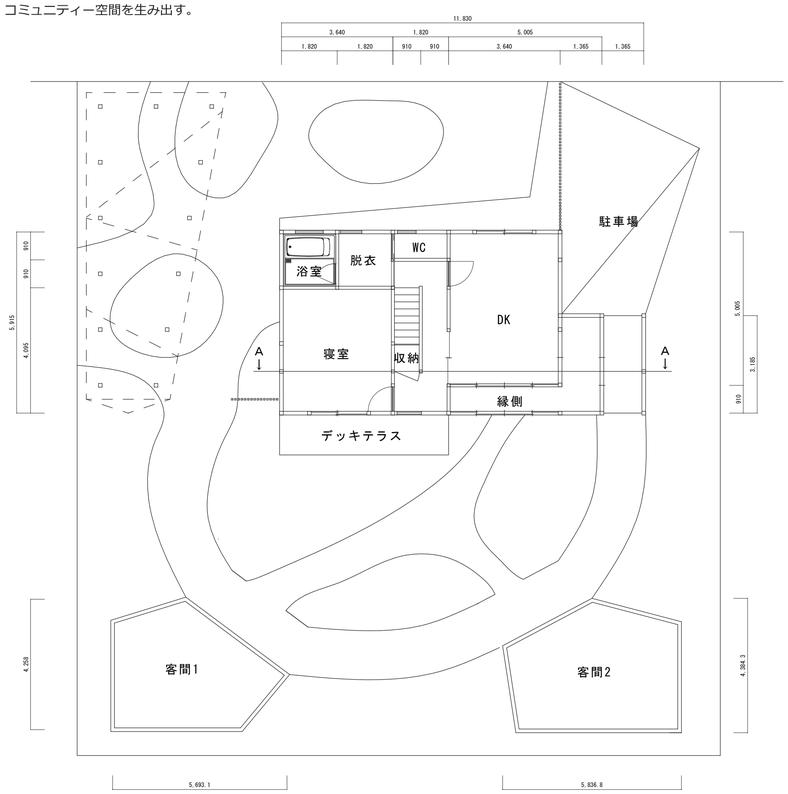
▲外にある客間にはグランドピアノがあり、窓を開放することで敷地内での演奏会が可能となる。
また、ピアノだけでなく趣味での演奏会や地域の吹奏楽部の演奏会などを行うことも可能となり、大規模なコミュニティー空間を生み出す。

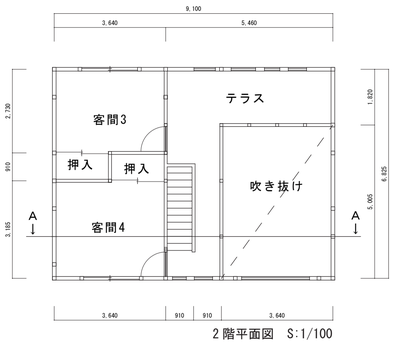
▲街路に面した敷地は公共空間として開放した。ここには屋根を設けたパブリック空間があり、誰でも出入りができる空間となる。

見守り見守られる家

子供が巣立ち、二人きりの時間が訪れるとともに現れる老後の「不安」。この住宅は、その不安を和らげるための家ある。
リビング・ダイニングでは二人だけのゆったりとした時間が流れる。そこに隣接する縁側に出ると、コミュニティー空間が広がる。
ここでは親密なコミュニティーであるが、北に面するパブリックな空間とつながりを持たせることで、次第にコミュニティーの和が広がって行く。この「和」によって、不安な空間が見守り見守られる空間へと変化する。

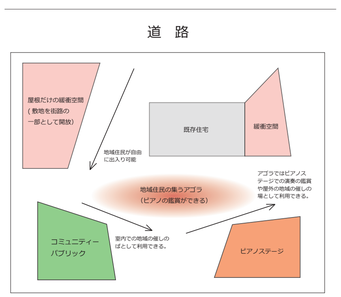


配置図兼 1 階平面図　S:1/100



2 階平面図　S:1/100

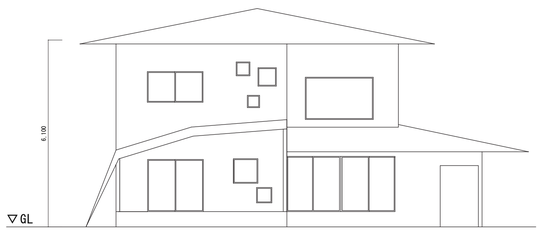
▲アゴラに訪れた子供や家族を縁側から見守ることができ、また、それが見守られる場ともなる。



▲敷地内のパブリック空間における、住民の流れを現したダイアグラム。

街路に面した敷地に屋根を設け、緩衝空間として地域に開放し、地域住民が自由に集い憩うことができる。
南側には屋内のパブリックコミュニティー空間があり、室内で地域の催し物が開催できる。
敷地の中央には地域住民の集うアゴラがあり、ピアノステージより演奏される音楽鑑賞や屋外での集いの場として利用できる。
これまで地域に育ててもらった土地の価値を、これからは地域に還元して地域住民が敷地内を自由に出入りすることにより、地域のコミュニティーを創出し地域みんなで見守れる空間を提供する、さらに家の住民は地域に見守られるあたたかいつながりのある家となる。

各階面積　1F 101 ㎡、2F 46 ㎡
延べ床面積　147 ㎡
建築面積　101 ㎡



南立面図　S:1/100

北立面図　S:1/100

A-A 断面図　S:1/100

▲リビング・ダイニングに縁側を隣接させ、空間に広がりを持たせることで、くつろげる空間となる。